

令和7年7月25日

第一回地域連携推進協議会（入所）議事録

日 時 : 令和7年7月25日（金）
場 所 : 新会議室
参加者 : ご利用者（S. T さん）
ご家族代表（K. M さん）
地域関係者（古新田地区長 K. M さん）
福祉に知見のある方（中核地域生活支援センター夷隅ひなた B. M さん）
経営に知見のある方（槇の里いすみ学園 施設長 D. T さん）
市町村の障害福祉担当者（勝浦市役所福祉課 課長 W. H さん I 保健師）
学園職員（村上施設長・山口副施設長・近藤主幹・栗原主幹・東統括主任）

記 録 : 東

1. 開会
2. 委員・学園職員の自己紹介
3. 施設見学
4. 学園状況説明及び質疑応答
 - (1) みずほ学園の現状説明
 - (2) 経営状況についての説明
 - (3) ご利用者の日常生活の様子説明
 - (4) 地域からの苦情の状況説明
 - (5) 虐待・身体拘束の取り組み説明
5. 委員からの意見・感想・ご利用者への質問等
6. 閉会挨拶

1. 施設長から開催にあたり参加のお礼と挨拶がありました。

職員の人手は増えています。今後は質の向上を大切にしていこうと思っています。施設は施設の中だけで完結し易い部分が出てしまいます。今回の機会を通して外部の方から多角的なアドバイスを頂きたいと思います。
2. 各委員、学園職員から自己紹介を行いました。
3. 栗原主幹、東にて案内し、見学を行いました。

ユニットの人数、入浴（シャワー浴）の実施について、ユニットの装飾の工夫、行事の様子（写真から）等について質問、説明を行いました。
4.
 - (1) 副施設長より資料を使ってみずほ学園の概要について説明がありました。

- (2) 近藤主幹より資料を使って財務状況について説明がありました。
- (3) 栗原主幹よりみずほ学園パンフレットを使って説明がありました。
- (4) 施設長より説明がありました。

開所当時より古新田地区の皆さんにはみずほ学園についてご理解を頂いてきました。みずほ学園に入所されているご利用者の皆さんが地域の中で皆さんと暮らしていく「共生」の意味についてご理解を頂いてきました。施設では施設の中で完結し易い部分があります。園の外である地域から見ると感じる違いもあると思います。私としては有りだと思いましたが、ウォーキングでは職員とご利用者の区別がつかず、安全等の為の声をかけようとしても困ってしまった相談がありスタッフとして分かりやすい工夫をしました。

大多喜町の地区から不法投棄のごみの指摘、その他、車両の運転についての指摘等も受けました。それぞれ改善を促す取り組みを行いました。

- (6) 東より資料を使って虐待・身体拘束の取り組みについて説明を行いました。

5.

- ・夜勤者の体制、人数は？（夷隅ひなた Bさん）

→3人体制です。A・B・Cユニットに配置し、D・Eユニットは見回りでの対応をしています。（施設長）

→ご利用者の年令・健康状態等によっては、今後、配置を増やす必要も出てくるのかもしれませんが。

（副施設長）

- ・通院はどうか？（夷隅ひなた Bさん）

→令和6年度は、年間559件の通院がありました。また、コロナ以前は入院の付き添いが1日2名必要でした。コロナ後からは付き添いは無くなりましたが、今後、亀田病院の病棟によっては付き添いが始まる可能性があるかもしれません。保護者との協力も検討していかなければいけません。

（副施設長）

・ご利用者の方の中から希望のある方を対象に選挙の為、不在者投票に行きました。その時の対応の丁寧さに感謝しています。（栗原主幹）

・見学時にも感じたことですが、ミトンを使用している方についての取り組み、説明等ご利用者の方々の人権への配慮が感じられました。役所にも市民から苦情が入りますが、みずほ学園の地域での「共生」は素晴らしいと思います。（福祉課課長 Wさん）

・古新田地区、勝浦市への貢献が今後の大切な取り組みでもあると感じます。みずほ学園周辺の道路の草刈り、長年続けることが出来ている週に1回の市内の缶回収、花の販売等これまでの取り組みと合わせ地域で根付いていくかを大切にしたいと思います。11月には古新田地区との交流会を計画しています。こういった機会を通して、ご利用者が幸せに生きていくために今後ともご助言をお願いします。（副施設長）

7. 入所施設として外からの空気、風を取り入れながら開かれた施設となっていかなければいけないと思います。楽しく、健康に暮らすため今後ともご助言をお願いします。

以上